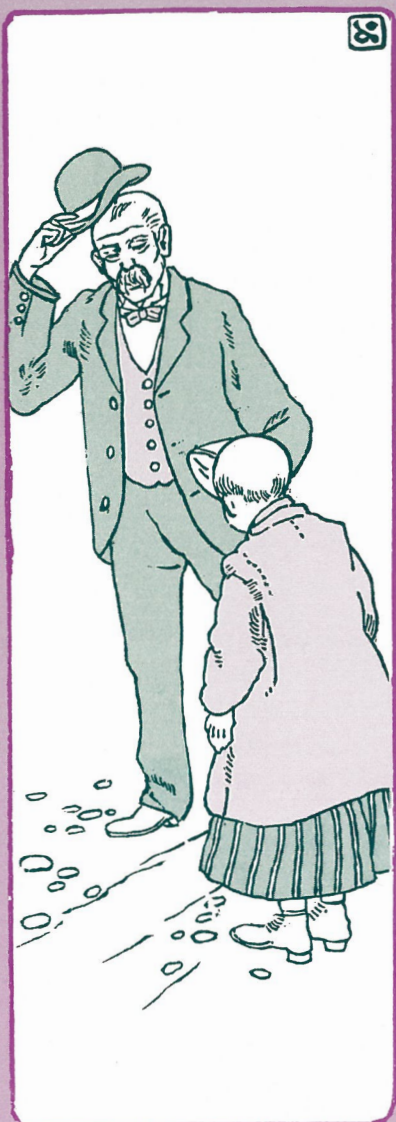


「しつけ」の歴史と将来の課題とを念頭において、
明治から昭和末までの一八文献を収録。

全9巻 石川松太郎・山本敏子・藤枝充子編・解説

《日本人、育てのなかのしつけ論》 文献シリーズ



クレス出版

編集・刊行にあたって

石川 松太郎

しつけ〔躰〕とは断るまでもなく、礼儀作法を身に着けさせること、或いは身に着いた礼儀作法を意味する。日本では一四世紀のなかば、室町初期に小笠原長清により弓馬の術として開発されたが、江戸時代にいたり武家礼法一般として普及した。それゆえに、躰は封建制社会における身分の高下、家父長制社会における地位の尊卑を維持するうえに必須の心得であり行動様式として尊重されてきた。そして明治初年以降、市民社会の成立・発展とともに、かなりの改訂を加えられながらも第二次世界大戦期におよんだ。大戦終結後に民主社会を建営するにあたり、人間育成のなかで、「しつけ」は軽視・無視どころか排撃の的にされる場合さえ少なくなかった。

けれども、人間は家族・学校・企業・民族ないし国民など、何らかの集団を組まなければ生存は不可能である。自分とともに属する社会諸集団の発展を願うためには、たがいの人格・思想・行為を尊重し合いながら平和で安定した人間関係をきづく必要がある。この民主的で安定した人間関係の構築に欠かせない思惟・行動こそ、新しい時代に相応しい内容をそなえた「しつけ」といえよう。

本シリーズは、上記した「しつけ」の歴史と将来の課題とを念頭において、明治期より公刊されたしつけに関する文献九種を選抄、解説を施したものである。教育学はもとより、心理学・社会学・民俗学・民族学・小児医学など、広域におよぶ視角からの選抄を試みたつもりである。このシリーズが、現代の教育・倫理に関心をもつ多くの人びとに読まれ、新時代に相応しい「しつけ」の創造と実践に役立てていただければと、ひそかに願っている。

〔社〕石門心学会理事長、日本教育史学会会長



第1巻

日本のしつけ

武田勘治著／昭和18年／三教書院
内容 真に子を愛する道、子は親の鏡、三つ子の魂、子供の修練、しつけ雑話、厳父慈母と教訓の力、勉強と実践 ほか

日本礼法史話

坂本貞著／昭和19年／日本電報通信社出版部
内容 礼の意義とその範囲、朝儀、東国武士と礼節、武家礼法の確立、江戸時代の概観、明治維新以後

第2巻

婦女心得 躰と育

依田文四郎著／明治27年／内藤右衛門
内容 天性並遺伝の事、胎児を感化する事並其健康法、哺乳間の教並育方、児守と保母との事、断乳後躰の注意並其健康法、心意諸能力を養ふ事、保母と遊戯との事、愛に溺れ我儘ならしめざる事、学齡内躰の事、学齡後猶高等教育を受しむる注意の事

子供の躰方 一名育児憲法

笹野豊美著／明治40年／服部書店
内容 お目覚のお菓子、着物の苦情、目やにのお顔、朝の御飯、あの袴の衣服、道草ばかり、楽しい幼稚園、お辞儀を一つ、おやつ、餓鬼大将、お土産きつと、お客様、手足まつ黒、一家団集、双六もう一度

第3巻

家庭教育 子供のしつけ方

西台米太郎著／明治43年／明治の家庭社
内容 教育者としての母、家庭生活と子供の教育、子供の疑問、放任主義と干渉主義、個性に対する注意、観察力の養成、従順の気風を養ふ事、強情執拗なる癖、家庭と学校との協力一致、子供の精神過勞、将来の目的を定むる事に就いて ほか

実験 子供の躰け方

報知新聞社家庭部編／大正10年／大明堂書店
内容 温い愛情で子供を躰けた実験、叱らずに育てた実験、子供から見た親の躰け方、日記をつけさせて几帳面にした実験、無理に不相応な学校に入れて失敗した実験、父母の無智が子を病弱にした実例 ほか

第4巻

女工の躰けと教育

石上欽二著／大正10年／日東社出版部
内容 先づ己れを訓練せよ、女工の個性を知る事、女工の心を解剖すれば、女工躰け方の批判、模範職工を利用せよ ほか

女工の躰けは此呼吸から

石上欽二著／大正11年／日東社出版部
内容 躰けの呼吸は此用意から、説論は此呼吸から、叱るには此呼吸から、命令は此呼吸から、悪癖矯正は此呼吸から

第5巻

国民学校 躰の修練実践

安藤圭助著／昭和16年／啓文社出版
内容 躰といふこと、躰方教育、教師と躰、授業と躰、躰の実践

国民学校 ヨイコドモの躰

安藤圭助著／昭和17年／啓文社出版
内容 躰の道、「ヨイコドモ」の躰心、「ヨイコドモ」の躰方、「ヨイコドモ」の躰と科目

第6巻

幼児の家庭教育

山下俊郎著／昭和26年／東洋書館
内容 幼児の家庭教育、幼児の生活とその指導、幼児の遊びと文化、幼児の基本的習慣、経験による教育、問題の子ども、小学校の入学に関する問題

子どもの自由としつけ

霜田静志著／昭和38年／明治図書出版
内容 しつけの出版、子どもの問題・親の問題、精神分析に学ぶ、しつけから教育へ

第7巻

子どもの心理としつけ

波多野完治著／昭和33年／民主教育協会
内容 子どもの発達心理、子どものしつけ

幼児の心理としつけ

波多野勤子著／昭和39年／牧書店
内容 子どもの幸福と家庭教育、母と育児、幼児のみちびき方、幼児のしつけ、子どものことと環境、いろいろな子どもと、その育て方

第8巻

巨視的しつけ法

松田道雄著／昭和39年／筑摩書房
内容 幼児の鍛練、子どもをいじめない医者、成績表にあらわれない能力、偏食の権利、赤ちゃんとつきあうエチケット、子どもの天国、民主主義は家庭用品でない、ひとりっ子 ほか

しつけ

我妻洋・原ひろ子著／昭和49年／弘文堂
内容 「しつけ」と日本民俗学、アメリカ人による日本の育児様式の研究、日本のしつけ、理論的考察

第1巻 日本のしつけ

日本のしつけ

六六

二、子は親の鏡

源信僧都とその母 『往生要集』の撰者として、また天台宗恵心派の流祖として史上に名高い源信僧都(恵心)は、朱雀天皇の天慶五年(一六〇二年)大和の國葛城郡當麻村に生れた。大體、御堂關白藤原道長と同時代の人である。幼い頃比叡山に登つて學問をし、十三歳で剃髮得度した。天資すぐれ修業にも精根を傾けたので、第一流の學僧となつた。その撰著になる『往生要集』や『因明四相違略註』を宋(支那)に托送するや、かの國の僧徒に讃仰されて「日本の小釋迦源信如來」と呼ばれ、宋の皇帝からも厚く尊信された。後に源空法然上人や親鸞聖人によつて開かれた浄土信仰の宗門は、實に源信僧都の開いた新しい境地から流れ出たのであつた。

その頃は道長の歌「この世をば我が世とぞ思ふ望月の、かけたることの無しと思へ

第2巻 子供の躰方

第八 お辞儀を一つ

第八條 途中にて長上に逢ひたる時は必ず挨拶さすべし。

園より持ち歸りたるものは一定の場所に仕舞はせること
幼稚園よりの言傳の有無を問ふこと

大きな西洋館のある角を右へ曲つて、川岸の廣い通りへ出ると淡緑の柳の木の下で、年の頃、五十許りの叔父さんが、五歳許りの女の兒の頭を、撫てながら、「よくお辞儀が出来て感心です……可愛らしい兒だ」と、さも嬉しさに、言ふて居りました。急ぎ足で、其の兒の側へ行つて見ると、それが、幼稚園の朝子さんでありましたので、思はず自分の手も、朝子さんの頭の上へいつて、「朝子ちゃん、よく、お辞儀が出来ましたね」と其の叔父さんの眞似をする様に言

お辞儀を一つ

第7巻 幼児の心理としつけ

132

1 子どもらしさと環境



「このごろの子どもは、りこうでとてもかなわない。」ということばをよくききます。實際、子どもはなかなかよくりくつをいい、また物知りでもあります。けれどもそれがあまりりくつっぽく、子どもらしいところが少なくなつてきてはいないでしょうか。十年、十五年前の子どもは、いまのように物知りではなかつたけれど、もっと空想的な、創造的な心をもっていたように思います。いったい、どうして子どもたちがそうかわつてきたのでしょうか。

それにはもちろんいろいろの原因がありますが、なにより強い影響をもっているものは、おかさんの「教育熱心」だろうと思います。教育に熱心なのはまことにけっこうなことですが、熱心なあまり、子どもを実力以上にいつも背のびをさせる傾向があります。ことに、上級学校のむずかしい入学試験を無事に通過させるために、小さいうちから、知的につめこもうとするむきが多くなつていようです。そしてそのために、子どもたちは小りこうになり、子どもらしさがなくなり、りくつっぽくなつてきたといえましょう。

第8巻 巨視的しつけ法

72 ききめのない叱り方

子どもには性分にあった叱り方をしないとイケないといいましたが、じゃあ誰がいはばん子どもの性分をよく知っているかといえ、これはお母さんでしょう。小さいときから、いっしょに暮らして、この子がカン癪もちか、おっとりしているか、ちょっと見栄坊のババに似てお洒落か、そういうことは、お母さんが誰よりよく知っています。ですから、いはばん上手に子どもを叱れる人があるとすればお母さんです。お母さんは叱ることについて自信をもっていると思ふんです。

ちょっと叱らないでも、うまくやっていると子どももあるんですから、上手な叱り方というのをきめるのはなかなかむずかしい。ただ、下手な叱り方というのは、かんとんにわかります。叱つても一向ききめのない叱り方、叱つてかえつてわるくなつた叱り方というのは、よくない叱り方です。私は子どもが五人いて、ずいぶん叱つてきた方ですから、ききめのなかつた叱り方というのは、これはいへんよく知つていふつもりです。

叱る目的は、こちらの考えているルールにのせようというのですから、うまくルールにのつて動いてくれないとだめです。子どもが親の敷いたルールにのつて、うまく進行してくれるためには、親と子とのコミュニケーションがたもたれているということが一番だいじです。親のいうことが、子どもに通じる

第9巻

言葉の教養 躰の変遷と現代の問題点

宇野義方著／昭和54年／同文書院
内容 しつけの移り変わり、現代の教育、しつけの問題点

しつけ

大島建彦編／昭和63年／岩崎美術社
内容 日本に於ける民間教育の伝統(山口麻太郎、躰の問題(倉田一郎)、農村の躰(山口弥一郎、幼時の躰(宮本常二)、諺の教育的役割について(大藤ゆき)、しつけの伝統(竹内利美)、躰の教育的伝承(潮地悦三郎)、しつけについて(都丸十九二)、しつけ(向山雅重)、しつけ(橋本武)、鍛冶屋の生活(三田村佳子)



《日本人、育てのなかのしつけ論》 文献シリーズ 全9巻

石川松太郎・山本敏子・藤枝充子 編・解説

- 第1巻 日本のしつけ、日本礼法史話
- 第2巻 婦女心得 躰と育、子供の躰方 一名育児憲法
- 第3巻 家庭教育 子供のしつけ方、実験 子供の躰け方
- 第4巻 女工の躰けと教育、女工の躰けは此呼吸から
- 第5巻 国民学校 躰の修練実践、国民学校 ヨイコドモの躰
- 第6巻 幼児の家庭教育、子どもの自由としつけ
- 第7巻 こどもの心理としつけ、幼児の心理としつけ
- 第8巻 巨視的しつけ法、しつけ
- 第9巻 言葉の教養 躰の変遷と現代の問題点、しつけ

A5判/上製函入クロス装/本文クリーム中性紙 平成18年5月末日刊行

揃定価90,000円(税別) ISBN4-87733-324-X(セット)

● クレス出版好評既刊書 ●

「子どもと家庭」文献叢書

全12巻/石川松太郎監修 山本敏子・藤枝充子編集協力
明治初年より昭和期の第二次世界大戦終了時までには家庭教育について論じた文献を、子どもと家庭(とくに両親)との人間的な関わりに視点をおき、思想・心理・生活などさまざまな角度より収録。日本の近代社会の子育ての理念・方法・内容の軌跡。
A5判/総6,280頁/揃定価本体132,000円 ISBN4-87733-042-9

戦後家庭教育文献叢書

全10巻/石川松太郎・山本敏子監修・解説
家族が家庭で子どもに基本的な教育と社会化を行う「家庭教育」は、子どもの人格形成に重要な役割をもち、教育の基本である。「家庭教育」という枠組みのなかでも、思想哲学、歴史、行政政策、社会、心理、児童・社会福祉にも及んで編集している。
A5判/総4,120頁/揃定価本体94,000円 ISBN4-87733-018-6

叢書 日本の児童遊戯

全25巻別巻1 上笙一郎編、各巻解説付
江戸時代より第二次大戦期までに出版された〈子どもの遊び〉にかかる文献のうち、理論的・研究的・教育的・実技習得的および好事趣味的なもので、しかも稀覯的なものを復刻。
第1回配本 I. 伝承的な遊びと玩具 第1巻～第9巻 全9巻
揃定価94,000円 ISBN4-87733-200-6
第2回配本 II. 近代の遊びと研究 第10巻～第16巻 全7巻
揃定価83,000円 ISBN4-87733-201-4
第3回配本 III. 遊びと子ども 第17巻～第25巻 全9巻
揃定価98,000円 ISBN4-87733-202-2
別巻 総論 日本の〈遊び=おもちゃ研究〉のあゆみ(上笙一郎著)
叢書 日本の児童遊戯 全25巻 解説集
定価5,000円 ISBN4-87733-203-0
A5判/総14,460頁/揃定価280,000円 ISBN4-87733-204-9

近代日本学校教育論講座

全12巻/石川松太郎監修 石川松太郎・山本敏子・藤枝充子解説
近代日本における、学校の存在意義、経営管理、教育内容、管理方法等について論じた文献を集成。今日の「学校教育」を再考するために重要な資料。
A5判/総5,000頁/揃定価本体100,000円/ISBN4-87733-128-X
第1巻 日本近代学校史(海後宗臣著)
第2巻 学校通論(箕作麟祥訳述)
第3巻 平民学校論略(村岡範為訳述、平野知秋校)
第4巻 学校教育(小西重直著)
第5巻 学校論(弊原坦著)
第6巻 学校の意味(遠藤隆吉著)
第7巻 学校教育論(阿部重孝著)
第8巻 学校教育学(小川正行著)
第9巻 国民学校の本質(由良哲次著)
第10巻 地域社会学校(石山脩平著)
第11巻 農村地域社会学校(石山脩平指導、福沢小学校編)
第12巻 学校社会学(大浦猛著)

家族研究論文資料集成

明治 大正 昭和前期篇全27巻別巻1 老川寛監修・解説
明治初期から昭和20年8月までの「家族」に関する論文資料を収録。
第1回配本全5巻 家族・家族制度論、家族・家族制度史
揃定価86,000円 ISBN4-87733-092-5
第2回配本全6巻 家族構造、大家族、戸籍・人口(統計)
揃定価116,000円 ISBN4-87733-093-3
第3回配本全5巻 家族の機能、家族の伝統と変化、農・山・漁村家族、都市家族 揃定価113,000円 ISBN4-87733-094-1
第4回配本全6巻 婚姻 揃定価120,000円 ISBN4-87733-095-X
第5回配本全5巻 離婚、相続、隠居、分家、親子、親族・同族・氏族、家族の問題 揃定価80,000円 ISBN4-87733-096-8
第6回配本 別巻 総目次、執筆別索引、解説
本体5,000円 ISBN4-87733-097-6
A5判/総24,500頁/揃定価本体520,000円

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋
☎(03)3808-1821 ☎(03)3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>

●書店名



株式会社クレス出版